

ジェンダー みんなの日常へ



動画を流してジェンダーについて説明する学生＝武豊町砂川の砂川会館で

性的少数者（LGBT）が安心して過ごせることを目指す日本福祉大（美浜町）のサークル「にじぶく」が、武豊町と協働で性の多様性への理解を呼びかける動画を作成した。高齢になるほど認知度が低いジェンダーについて啓発していく。

（内山陽貴）

昨年12月、砂川会館（同町砂川）であった「憩いのサロン馬場会場」で、学生4人が約50人の高齢者らに動画を流しジェンダリーについて紹介した。参加者は興味深く耳を傾け、「プライバシーに関わる話をみだりにしないようにしたい」「ジェンダーのことを理解できた」と学んだ。

動画は2分ほどの4種類。性のあり方を本人の同意なく第三者に暴露する「アウティング」と題した動画は、娘が母に「女性が好き」と打ち明ける。母が近所の人たちに相談し、娘が心配される様子を描いた。

「日傘」では、夏の暑い日に男性が日傘を使うのを見ためらう姿を表現。使つてみると直射日光を避けられ

日福大生 武豊町と協働で動画作成

快適に過ごせ、周囲からも賛同を得た。「男女」ではなく「人間だから」という意識で接することを訴えている。

動画は、にじぶくや社会福祉学部、末盛慶教授のゼミ生らと町が一緒になつて撮影した。出演者は公募し、イメージに当てはまる人や鳥羽悠史町長など知名度の高い人などを選んだ。すべて町内で撮影。PRや親しみやすさをねらい、旧国鉄武豊港駅転車台や乙姫橋など観光地も登場させた。脚本や編集も自ら行い、1ヶ月ほどかけて完成させた。

にじぶく代表の森下和さん（3年）は「町と一緒にやつたことで、これから広めていける期待と達成感を感じた」と手応えを語る。

動画は町公式ユーチューブで公開されている。森下さんは「ジェンダーは誰しも生活の中にあると知つてもういたい。町長など、なじみのある人も出しているので身近に感じてほしい」と呼びかけていく。

高齢者に紹介 町長や観光地登場で身近に